

神奈川県立金沢総合高等学校 令和7年度第2回学校運営協議会議事録（発言要旨）

○開催日時：令和7年10月13日（月） 10：30～12：30

○開催場所：本校応接室

○参加者：

◆学校運営協議会委員

出光委員、渡邊委員、松崎委員、浅尾委員、鳥越委員、佐藤委員

◆本校職員

栗原校長、長瀬副校長、吉居教頭、黒瀧総括教諭、鳶寄

校長：本日はお忙しい中ご参集いただき感謝申し上げます。月曜日3校時の授業をご覧いただいたが、その感想等忌憚のないご意見を頂戴したい。

委員：韓国語の講座は始まる前に結構廊下に人だかりができていた。教室の外に貼ってある様々な掲示物を見たり、どんな授業なのだろうかという感じであった。例年韓国語は女子ばかりが履修している印象である。長年指導されている二人の先生が一生懸命授業をされていたが、ふと思ったのは、横浜市大に留学している韓国語ネイティブの学生を韓国語の授業の中に入れて、日本語が話せないようなふりをしたら、生徒たちはコミュニケーションを取るために一生懸命やらざるを得ない状況になるのではないかなと思った。

先生方が一生懸命授業されていることは承知しているが、全力で頭を使い言葉を考え発言しないとうとうしようもないような状況に、生徒たちを放り込んであげたら生徒の語学力が向上するだろうにとは思った。

また、昨年から数学Cも拝見していて、あのレベルであるとさすが数学が好きな生徒が生き残っている感じで、それぞれに問題をひたすらに解いている感じであった。その生徒たちには横浜市大を受験してもらえないものかと思ったりもした。そのためには日本数学オリンピックに是非チャレンジさせてほしい。数学オリンピックにおける一定以上の成績を収めると、10月中に横浜市大の理学部を受験できる制度がある。数学科だけでなく理科でもあるが、検討いただければと思う。

また、1年次生の授業もそれぞれ先生たちは工夫してしっかりやってらっしゃるなと思ったが、1年次生の中で高難度なものを習いたい生徒のクラスを設けたら面白いのではないかなと思った。この学校の雰囲気としてはそんなにガシガシと勉強する生徒がいる雰囲気ではなく、ちょっと楽しくやっていこうという感じがある中で、数学Ⅲ・Cぐらいまで履修している生徒も何人かはいるので、

ちょっと地獄を見たい生徒、ではないが好き好んで地獄のような勉強をしたい生徒もいるのではないかなと思った。

授業外では、毎年私が進路指導室の壁に掲示されている指定校推薦枠の掲示を見に来る保護者が多いと言ったのを担当教員が覚えていた。

本校は指定校推薦で上級学校へ進学する生徒が多く、その進学先をウェブサイトに掲出しているというのは、金沢総合のポジションとしては別に悪いことではない。ただ、この大学の枠が埋まっているとか、2枠追加募集とかちょっと生々しい情報については今日のタイミングでは隠しておいた方がいいとは思った。

本校職員：委員が仰るように、やはり数学Ⅲや数学Cを履修している生徒は、授業を見ても食いつきがすごく良い。そういう生徒たちを伸ばしていくことも大切だ。

委員：純粋に問題を面白がってお互い教えながら解いていたので、それが早いうちからこの授業はちょっとみんなで楽しく、この授業はちょっと地獄のように勉強するみたいなものをあっても良いのではないかなと思う。

委員：韓国語のネイティブの講師がいっぱいいるのが素晴らしい。外国語ネイティブの講師から教わる環境はなかなかないと思う。

本校（小学校）も外国にルーツを持つ生徒が多く、その生徒たちが高校に入学して、こういう講座を履修したら大活躍するのだろうなとか思ったりもした。数学の授業も拝見したが、1年次生はやらされている感が見受けられる生徒がいるクラスもあったが、別のクラスでは生徒同士で教え合っていて、1年次生と雰囲気が違うクラスもあった。

その隣のクラスも同じ数学の三角関数の授業であったが、教員が机間指導をすごく丁寧にされていて、高校生でもこんなに机間指導してくれると、子供たちもやる気になるという風には思った。

手話の授業も拝見し、音が聞こえないからこそ表情がすごく大事だという話をされていて、本当にそうだなと思った。単に手話の形を学ぶのではなく、手話を通してどう伝えるかということを教えてくださっている先生が素晴らしいと思った。それがどこまで生徒に伝わっているかはわからないが、このような体験や学びが積み重なっていくと、コミュニケーションを取る一つの手段として手話があるのだということが伝わるのかなと思った。

本校職員：数学Ⅰ等は、仰られたように1年次では必修科目である。本校に入学する生徒は、理数系が苦手な生徒がどちらかということが多い。理科、数学に対しては最初から拒否反応を示す生徒も少な

くない。文部科学省から定められた科目はどうしても必ず履修しなければならず、1年次の時にほとんど所定の科目履修を済ませる教育課程となっているので、1年次では理科や数学が嫌で仕方がないという生徒もいる。

2、3年次になると科目を生徒自身で選択しているので、基本的には得意だったり好きな科目を履修する生徒が多い。

先ほど手話の話が出たが、手話は授業としてだけでなく、本校では手話月間が毎年5月に設定されている。それを大切に思う教員がおり、その取り組みが神奈川県でも取り上げられ、本校の生徒が書いたポスターも含め取り組みが評価されている。そのような気概のある教員がいることはとてもありがたいと感じている。

委員：自分の視点としては、生徒が授業中に寝ていないかどうかを見ていた。それを授業と関連させながら見てみると、私が面白いと思う授業を行う教員のクラスでは生徒はちゃんと起きていた。ただ、授業も作業だけではダメで、面白い授業プラス作業があると起きているのだなと思いながら見ていた。

また、ディスプレイを使いこなし工夫して授業をされている先生は素晴らしいなと思った。個人個人で作業をしているのを机間指導していて、しっかりとフォローしているのだなと思った。ただやはり気になるのは、寝ている生徒の寝方が爆睡だったので、あれはどうなのだろうかと思った。

本校職員：私が授業を見に行ったりしていると、教員は寝ている生徒を起こすようにしている。ただ、起こしても起きない生徒も多く、中には生活リズムが崩れてしまっている生徒もあり、その原因として考えられるのは以前から本校でも問題となっているアルバイトと思われる。

アルバイトで深夜まで働いているわけではなくても、帰宅時間は遅くなると思われるので当然睡眠時間が短くなり、どうしても生活リズムが崩れてしまう生徒がいる。教員がサボっているわけではなく、結構起こそうとはしている。それでも反応もないぐらいの生徒もいて、その生徒にずっとかまけていると授業を始められない、進められないというのもあって頭の痛いところではある。

委員：とても魅力的な授業をしているにもかかわらず、ある一定の生徒にはそれが伝わっていないようなのが残念だなと思う。

本校職員：年次が上がってくると授業をしっかりと受けられない生徒が増える傾向はある。アルバイトで長時間働かなくてはならない生徒の中には、経済的に問題がある家庭も少なくないので、本人がやりたくてやっているというよりはやらざるを得ないという家庭も実際にある。

ただ、あくまでも高校生なので、当然授業が最優先ということは生徒たちも理解していると思う。頭ではわかってはいるけど、体力的に持たないという生徒もいるのかなと思う。

そのような生徒は起こせば起きるし、本人も寝ちゃいけないと思って頑張っているが、途中で力尽きてしまっているのだと思う。とはいえ、一筋縄ではいかない難しい問題だ。

委員：全体的な思いとしては、ディスプレイを使って工夫されていて、授業の展開の仕方はとても上手だなと思った。私が見た中で興味深いと感じたのは、情報の科目である。

データの圧縮方法についての授業が行われていて結構レベルが高いと思った。教科書に沿った内容なのだと思うが、画像の形式等についても結構細かく指導されていて、こういう知識は社会に出てから絶対に活かせると思う。教員も君たちがよくやるインスタグラムではこの形式のファイルで投稿した方が良い等と教授していた。このような、生徒に興味を持たせるような話であるとか、知識のインプットだけではなく、ペイントソフトを使って手を動かしドラえもんを描いてみようというものもあり、社会人でもわからない人が多いのではないかという内容の授業であった。我が校の学生と教員も勉強し直さないといけないなと思ったくらいである。

他には英語コミュニケーションⅡを拝見した。内容は難民のオリンピック選手の話であったが、電子黒板に英文が表示されその一部が括弧で抜かれていて、そこに単語を穴埋めするもので個人学習であった。そのため単語を知らないと寝てしまったり授業に付いていけなかったりする生徒が出ているようで、どのような授業展開が最適なのかは難しいと感じた。

特に知識の積み上げが必要な教科・科目は、それまでの知識がどのくらいあるのかによって、学力に差がついてしまうのかなと感じた。

同じ英語でもロジカルスピーキングはグループ学習にしている、一人で作業させることをしてなかった。授業内容によってはグループ学習に適するものとそうではないものがあると思うが、グループ学習をした方が寝てしまう生徒は少なくなるのかなと思った。

また、授業のことではないが、廊下を見るとゴミの分別が結構きちんとされているなと感じた。

本校職員：ゴミの分別は当然しているが、完全に分別できているとは思っていない。見かけ上は良かったかもしれない。いい加減に捨てる生徒も当然いるし、急いで捨てて間違ったところに捨ててしまう生徒もいる。本校では業務員の方に巡回してごみの回収等行っていただいている。

委員：指定校推薦枠の掲示は気になって見ている方が多かった。やはり保護者は、卒業後の進路がどうなっているのかについては興味があると思う。定員数等が載っているものをそのまま中学生やその保護者に見せるのはやはりどうかと思うが。

委員：私立の高校は、どのくらい指定校推薦枠を持っているかという競争になっている。保護者の興味も多分そこなのだろうと思う。レベルの高い学校だと、早慶・MARCH辺りの指定校推薦枠が今ジャブジャブな状態のようだ。

委員：先週、金沢総合の初任者の二人の教員が、初任者研修の一環として来校した。その教員は教員と子供との関係を見たいと言っていたが、私自身も中学校と高校とで生徒の発達の違いはあるとは思いながら、今日高校の様子を見聞きしとても勉強になった。

その中で、特に総合高校特有の科目があるというのは私もよく知らなかったのだが、そこを中心に見た。韓国語や手話はおそらくその分野の入口として行われているのかなと感じた。逆に絵画の講座に関しては大きな絵を見て生徒がその絵についての寸評をしていて、非常に少ない人数のクラスだったが、結構専門的なことやっているのだなという印象であった。総合高校特有の科目としては、各分野の入口の科目・講座と、より専門的な科目・講座の2種類があるのかなと感じた。

本校職員：絵画については美術Ⅰ・Ⅱの単位取得後に履修しているので必然的に専門的な授業になってくる。逆に韓国語を履修する生徒は未経験な状態から始まる。手話も同様である。先ほど委員からご発言のあった情報の授業も、今日は情報Ⅰだったが、その先にプログラミング等の専門的な科目・講座があり、これらの科目・講座は必修科目をベースにしてさらに応用編という感じになっている。そのような科目・講座は、先ほども申したようにその科目が得意であったり好きな生徒が履修しているので、かなりレベルの高いものを求めても子供たちも授業に付いてくる点が一般的な教科の授業と違うと思う。

英語コミュニケーションⅡは、仕方なく履修している生徒は英語が受験に必要だからということで履修していることが多い。なので、先ほど委員が仰ったように、穴埋め問題のようなものになると、授業に付いていけないという感じの生徒がどうしても出てしまう。

本校の場合は普通科全日制とは違って、様々な科目・講座が混在しているだけに、レベルの高い科目・講座がある反面、なぜこんなにできないのかなというものも混ざってしまうところがある。

本校職員：ご覧いただいた初級韓国語の講座は韓国語入門の講座を履修し、単位取得してからではないと履修できないように設定されているため韓国語は2年目である。初級と言いながら一応一つ上のレベルの位置付けではある。ただ、あまりレベルは変わらないという風に担当教員からは聞いている。また、2年間履修しても語学レベルはあまり伸びていかない感じであるようだ。それは韓

国語のことが好きというより、韓流ドラマや韓国の文化等が好きで興味を持ち履修したという生徒が多いからだと思う。

委員：私もそう思う。授業中でも授業外でもアウトプットの機会が少ないので語学力が伸びていないのではないかと。だからこそ、先ほど申した留学生を授業に入れるような、言葉を頭から絞り出さないとまずいという雰囲気と接しないと語学は身に付かないのではないかと。そういう厳しい環境（授業）を用意しても良いとは思っている。

委員：韓国語や手話の講座は何年ぐらい継続して設定されているのか。

本校職員：本校で設定されている科目・講座は基本的にはずっと変わっていない。いわゆる教育課程が変わった時に見直しはするが、見直しをするだけで韓国語の講座は長い期間開講されている。また、語学の講座としてはフランス語、スペイン語、中国語もあるが今日の時間割には含まれていなかった。

委員：全部の教室は見切れなかったが、私にも何の授業だかわからない授業が多かった。生徒たちは自分で科目を選んでその教室にいるはずなのに、参加生徒全員がその授業に食いついているわけではないのだなという印象を持った。

また、気になったのはロッカーである。ロッカーが1階にあるので、一人の生徒が教科書を忘れ授業が始まってから取りに行っている生徒がいて、ロッカーまで取りに行き戻ってくるまでの間、授業が一旦止まってしまうのも大変だなと思った。

電子黒板はとても良かった。電子黒板に表示しきれない部分をどうするのだろうと思っていたら、黒板に続きが書かれ、結局は黒板も使うのだな、と。電子黒板に表示されている内容を消されてしまうと、板書が追いついていない生徒もいたので消さないで欲しいなと思っていたら、ちゃんと黒板の方に流れてきたのが良かった。

個人的には歴史好きなので歴史総合の授業を拝見したが、担当されている教員の声がすごく通っていて聞きやすかった。生徒たちも結構真剣にやっていた様子で、声が聞きやすい先生の授業は取り組みやすいのかを自分の子供に聞いたが、ぼそぼそと話す先生は眠くなると言っていた。

本校職員：電子黒板は導入されてから2年経ち、教員の方もかなり使い方の工夫をしだし、とても効果的な使い方をしている教員が出てきている。それが若手中心なのかと思うとベテランの教員でも使いこなされている方もいて、非常にありがたいと感じている。

本校職員：小中学校は現状どのようなICTの利用状況か。

委員：小学校では51インチのディスプレイがあり、iPadを使っている。生徒たちは1人1台iPadを持っているので、ロイロノートを使って自分の考えを書き込んで、その全文がディスプレイに表示されるような使い方をしており、教員たちも使い方等が進化してきている様子である。

ただ、数人のグループで意見交換するときには、iPadに書き込まない方がいいとも思っている。というのも、iPadを使っていると、生徒が相手を見ないでiPadの画面ばかりを見てしまっているからだ。むしろグループで意見交換を行う時は、iPadを閉じて実際に顔を見て話した方がいいという意見もある。

本校職員：中学校はどうか。

委員：中学校はiPadではなくタブレット端末（クロームブック）を使用している。

本校職員：本校のような大きな電子黒板はなかなかないものなのか。

委員：大きな電子黒板は見たことがない。

委員：大学は、基本的にプロジェクターやスクリーンを使用している。大きなホールでの講義になると、前方のプロジェクターだけでは学生から見えづらいので、中間点に上から映写装置をぶら下げるような形で実施している。

また、コロナ禍で一人1台パソコンを使用するようになり、またオンライン授業に切り替えていたので教材を印刷して配ることがなくなった。

それまでは、授業前に紙の資料を配ることもあったが、現在講義資料は全て電子的になっていて、印刷物を使用するというのはほとんどない。

委員：それを踏まえてこれができるかどうかはわからないが、本校生徒はみんなタブレット端末を持っているので、その中に全ての教科書をインストールできないのか。そうすればタブレット端末だけを持って移動すれば、忘れた教科書をロッカーへ取りに行く手間がなくなるのではないかと思う。

本校職員：それも良い案ではあると思うが、デジタル教科書がそもそもない教科もあるため、中途半端に一部の教科だけ導入してもあまり意味がないので難しいところではある。

委員：全てを電子的にするのも良いが、やはり手書きで作業をしないと、脳への刺激が少なくなり学習効果が低くなってしまおうとも思う。

本校職員：その通りだと思う。そこは留意している。学習効果を下げないようにデジタルとアナログをある程度併用したほうが良いと考えている。しかしながらデジタルとアナログとの線引きは難しいところではあると感じている。

委員：デジタル機器は電池が切れると、全てが見られなくなってしまうという点も留意すべきである。

委員：生徒たちは、タブレット端末よりもスマートフォンの充電を優先してしまうことが多いように思う。

委員：専門学校では理学療法士や作業療法士養成の課程で体の構造等を学ぶ際、立体的に見せたりすること等でデジタル教材を使って授業を行っている。その方が生徒も理解しやすいようだ。

委員：小学校では理科での月の動きについて、デジタル教材の方が圧倒的にわかりやすいと教員が言っている。

本校職員：委員の皆様それぞれご意見を頂戴してきたが、その他意見はあるか。

委員：金沢総合には漫画研究部はあるのか。

本校職員：ない。イラスト部はある。

委員：先ほど授業が始まる際に伺った教室は履修する生徒数が少なく驚いている方がいたのだが、当日の来校者への配付物に、オープンスクールでの授業の見方のポイントをイラスト入りで「教室の扉は開いているから自由に入ってください」とか、「生徒が少ない授業があるが、科目は生徒個人の選択なのでこの授業は生徒数が少ないです」等生徒に書いてもらったりしても良いのではない

か。

本校職員：オープンスクールでの授業の見せ方について来校者へレクチャーするようなものを用意してみてもどうかということか。

本校職員：確かに、本当はそのクラスは生徒全員が揃っているのに、一部の参加者に対し誤解を招いていることはあり得る。

委員：オープンスクールは学校公式の行事なので、学校サイドで準備しているものもあると思うが、生徒からも「よくおいでくださいました」という挨拶を兼ねたような感じで、生徒の作品があるといいかなと思った。

「空き時間で遊んでいる生徒もいるけど、これはサボっているのではないから気にしないでください」というのも入れておいたらいい。

本校職員：どうしても、教員主体だと来校者への気配りが足りていない面もあるので、貴重なご意見感謝申し上げます。

委員：校内案内図に4年1組と書いてある教室があるが、これはどういうものか。

本校職員：これは3年間で卒業できなかった生徒が4年次生として残っているからだ。本校は学年制ではない。普通科のいわゆる学年制の高等学校では所定取得単位が足りないと留年し、また1年間丸々全ての教科をやり直さなければならないが、4年次に在籍する生徒は、3年次までに取得できなかった卒業に必要な単位を4年次で取得すれば卒業できるということである。今年度は4年次生が1名在籍している。

4年次生の中には成績不振ではなく病気療養のために4年次生になってしまったという生徒もいるが、大方年に1～3人ぐらいである。4年次まで残って卒業までこぎつける生徒も結構いる。そこが単位制のメリットでもある。

委員：横浜市大は4年で卒業する学生は7割ぐらいしかいない。学習面が厳しくて留年する学生が1割ぐらいで、あとは端から5年計画で卒業を考えている生徒もいる。なので、高校も4年で卒業したいという生徒がいても良いと思う。

家庭の経済的な事情でアルバイトをどうしても沢山しないといけない生徒も、無理して授業中眠

くなりながら3年で卒業するぐらいだったら、その分授業を後ろに回してでも学業とアルバイトとを両立させて、4年かけて卒業するというスタイルはあってもいいと思う。別に3年間で卒業することだけにこだわることはない気もする。

委員：本日の来校者数は集計されると思うが、何人来校されたのかを教えていただけると幸いである。

本校職員：承知した。必ずお伝えするように取り計らう。

校長：本日はお休みのところ本校に足をお運びいただき感謝申し上げます。また、貴重なご意見を沢山頂戴し非常にありがたい。

授業の内容だけでなく、それに付随した様々なご意見をいただけたのが一番こちらとしてはありがたい。

なかなか授業に集中できない生徒の姿も見えたと思うが、別に隠すことなく、本校のリアルな状況を見ていただけたと思うので、またお気付きの点があれば、なんなりとお話いただければと思う。

また、10月25日土曜日が文化祭の一般公開日なので、お時間がありましたら足をお運びいただければと思う。これからもよろしくお願い申し上げます。

なお、文化祭では今年からキャッシュレス決済を導入した。後援会は現金のみの扱いだが、それ以外はコード決済や、交通系のICカード等でお支払いいただくようになっている。

次回の学校運営協議会は3月6日に実施予定である。皆様がお忙しいことは重々承知しているが、ぜひご参加いただきたと思う。